内村鑑三先生の書簡　第三集

A 011

内村鑑三先生の書簡

第三集

収容書簡目録

太田十三男氏宛　壱
藤本武平二氏宛　七
村田　勤氏宛　壱
山田幸三郎氏宛　弐
関口友吉氏宛　弐

太田十三男氏宛書簡

太田十三男氏寄贈

コクヨ 255

内村鑑三先生自筆の太田十三男氏宛書簡目録

和歌山市毛見南丁　太田十三男氏寄贈

書簡の種類	発信年月日	発信地	受信地	受信人	用件
封書	明治三七、二、二一	東京角筈	長崎港碇泊軍艦葛城	太田十三男	キリスト信者の戦場に臨む覚悟
、					

（附記）

政池仁著　内村鑑三伝（一九五三年二月発行）中日露開戦後の非戦論の項に於て二一九頁に次の如く述べられている。

「又海軍中尉太田十三男は非戦論の故に職を辞そうかと思って内村に手紙で相談したが、内村はそれを思い止るように返事をした。」

なお同書角筈聖書研究会の項で一六四頁にも太田十三男の名が記載されている。

昭和三十八年四月十一日
和歌山県海南市日東病院門前にて
太田十三男
八十三才

第一コリント 一五、一〇
たゞ恩恵
(写真裏面に自書)

拝啓

「内村先生記念文庫」設置につき御尽力下

深く感謝致します、

別封内村先生自筆の御[illegible]を寄送

申しあげます宜敷御願します。

敬具

38年3月4日

太田十三男

渡辺五六様

コクヨ 255

御健在を聞て甚だ悦び、貴兄其他従軍同志の事を慮かり、毎夕七時には必ず熱祷を捧げ居りた

戦争は悪事なるに相違なけれども今の罪悪の社会に在ては避くべからざる争とも存候。此時に当て我等は可成く静粛にして且つ謹慎ある態度を取り、尽すべき職務を忠実に取り、余は之を神意に任かすべきものと存候。

楽しき国は彼所にあり、此所にあらず。其大な

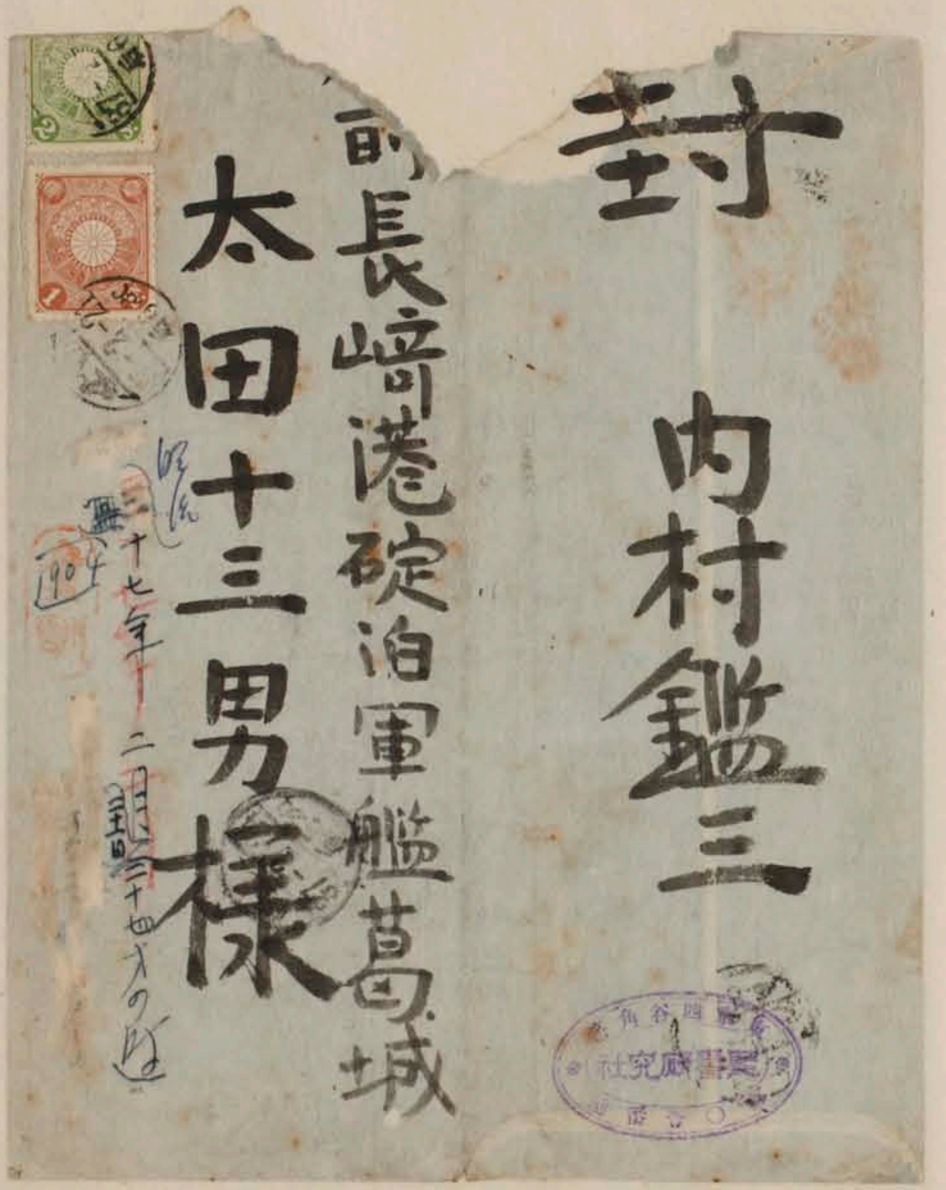
る希望を懐きて一死ち
べき時は立派に一死に終へ、
軍籍に在るキリストに信
者が戦場に於て一死にたれ
ばとて神は彼の霊を決
して天国より斥け給ざ
べしと彼は確は固く信じぬ、

長崎滞在港中着し
上陸さるゝことあらば三菱
造船所に技師、池。
田福司氏を訪れ給へ、
彼は最も忠実なる「研
究」読者にして彼と共に

四十の同志あり、大いに君の
心を慰めん、此手紙を示
さるゝあらば彼等は早悦
んで君を援けん、
神の平康君と共に
あらん　アーメン

二月廿一日
内村鑑三

太田十三男君


封
内村鑑三
前長崎港碇泊軍艦葛城
太田十三男様

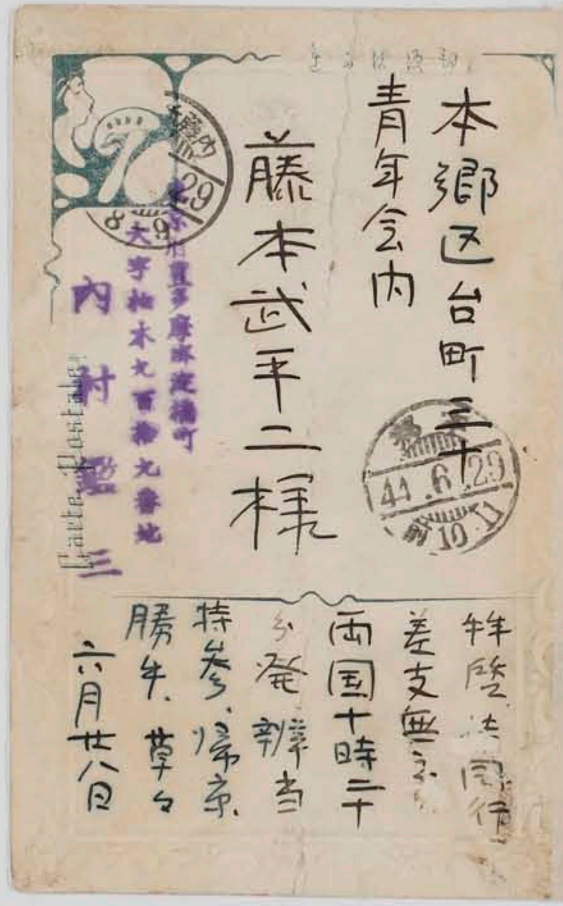
藤本武平二氏宛書簡

藤本武平二氏寄贈

内村鑑三先生自筆の藤本武平二氏宛書簡目録

杉並区上荻窪二丁目一一五　藤本武平二氏寄贈

書簡の種類	発信年月日	発信地	受信地	受信人	用件
絵はがき	明治四四、六、二八	柏木	本郷台町	藤本武平二	千葉県え同行承諾通知
封書	大正二、六、三	同	盛岡	同	盛岡行困難なる返事、近況
同	〃二、六、二九	同	同	同	礼状、近況
同	〃二、八、一五	同	同	同	出産祝、近況
絵はがき	〃二、九、一九	箱根	同	同	短信
封書	〃二、一〇、一	柏木	同	同	礼状、歌同封
同	〃三、一一、一七	同	同	同	礼状、石川鐵一氏結婚式のこと等



郵便はがき

本郷区台町三十
青年会内
藤本武平二様

東京府豊多摩郡淀橋町
大字柏木九百拾九番地
内村鑑三

拝啓 御同行
差支無之
両国十時二十
分発 辨当
持参、帰京
勝手、草々
六月廿八日

44.6.29

明治四十四年の頃（先生のお嬢さんルツさんが千葉県 鳴浜
海保竹松さん方へ療養に行っていられた頃）先生が
講壇から、千葉行に同行希望者は申出でよとの
事に、願い出たところ、その返事を頂いた。
両国駅発で黒木三次兄（黒木大将の長男）と高木
八尺兄（神田乃武氏次男、後東大法学部教授）とを合せ
三名が先生に同行。成東駅下車海保氏宅で集会
その夜一泊した。宍戸元平・篠原藏三郎氏等と
九十九里浜を散歩した

拝啓、両回の御書面有難く拝読仕り候萬事御好都合の由、殊に第一回禁酒戦に

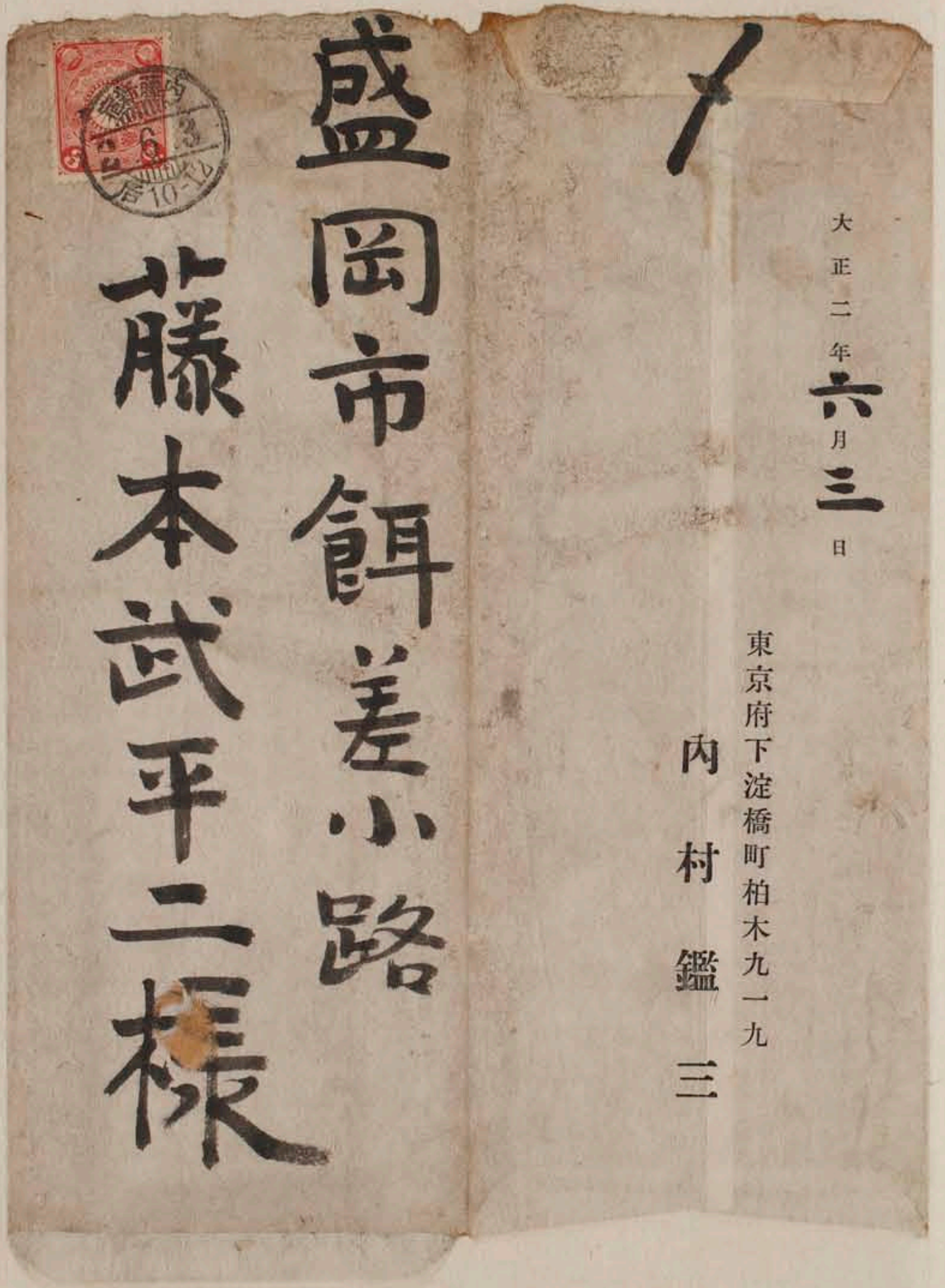
於て美事に勝利を
得られし由承はり大悦
の至りに奉存候。尚は今
後とも決油断無之
やう偏へに願上候。
偖小生貴地参上のことに
付き種々と考へ候所、四
月と五月つゞいて外出せ
しため用事澤山に溜ま
り居り、且又決地の事情
今日必しも小生の参上を要
求致すやうにも思はれず候

間、此所一先ヅ中止致
し候間右不悪御承知
被下たく候、花巻の高藤
氏私用にて上京あり、昨夜
一泊し、清容十種を承
はり安心仕候
昨日はモアブ婦人会の遠
足運動会あり、小生も
同道、大宮公園に於て
終日清遊致し、甚だ
愉快に有之候
人生活動の首途に於て

充分の御注意を願上候、
殊に短氣を御謹み被成
るやう呉々も御勧
め申上候　匆々

1913
六月三日
鑑三

藤本御両人様


大正二年六月三日

東京府下淀橋町柏木九一九

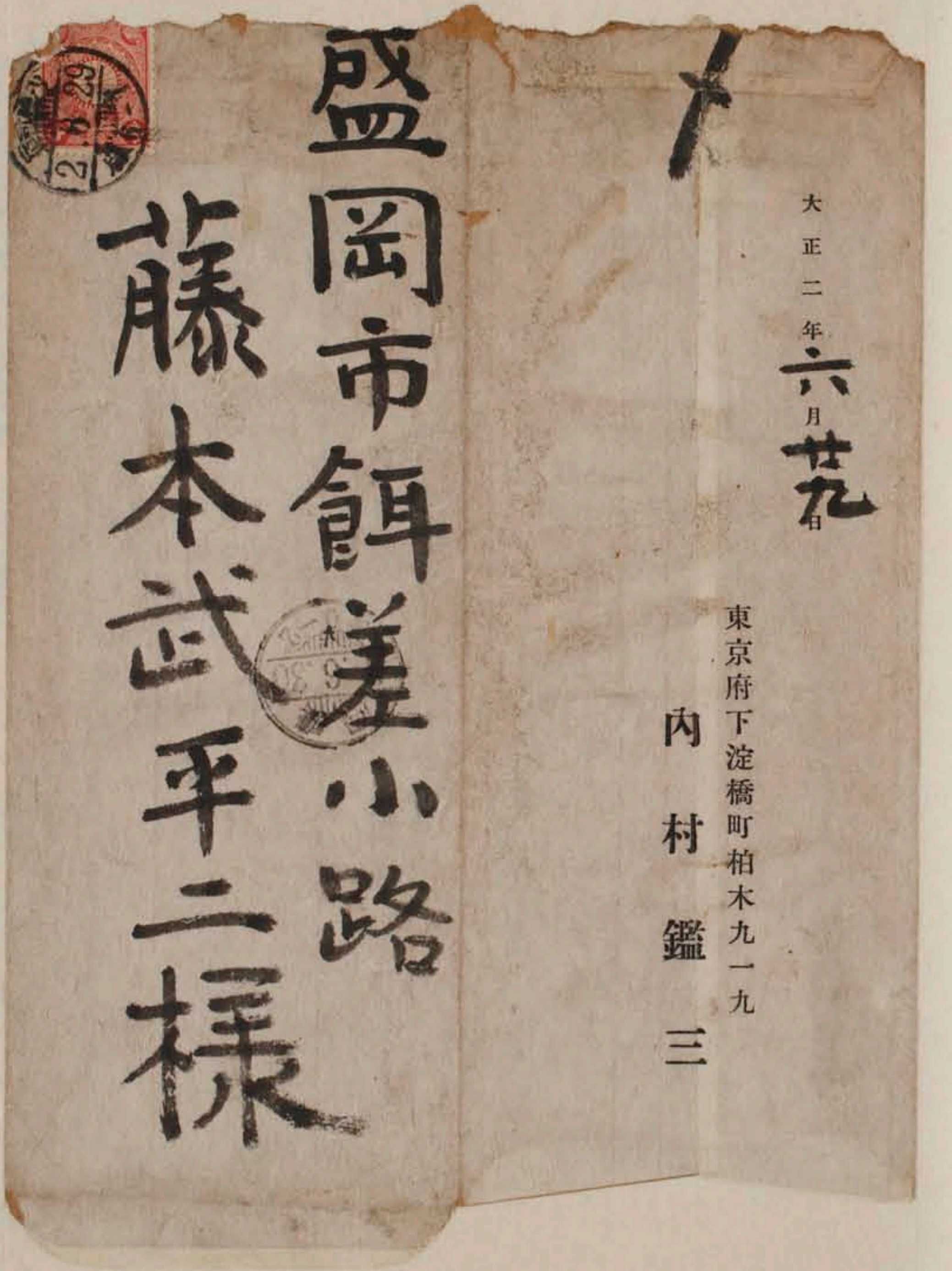
内村鑑三

盛岡市餌差小路

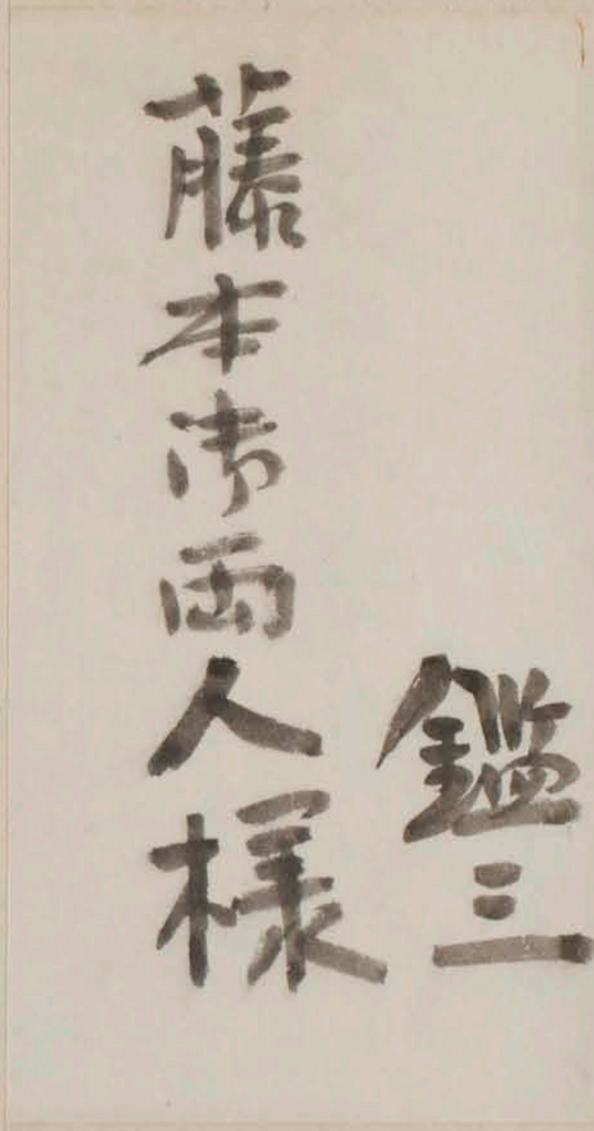
藤本武平二様

益々御清栄奉賀候
御地果物澤山に御
送り被下一同感謝を
以て頂戴仕候 御事
業の上には父の御恩恵
の加はらんことを常々
祈り居り候
今朝はコリント後五書

章一ノ九節に就て満
じ申候　我等の信仰の
純然たる来世的のもの
たらざるべからざる事に就
て語り申候
松江主人今日まで六回
引つゞき出席致され候
彼の霊に聖霊降
り明白にキリストを認む
るに至るやう切に祷祈り
上げたく候　匆々
一九一三、六月廿九日


盛岡市餌差小路
藤本武平二様

大正二年六月廿九日
東京府下淀橋町柏木九一九
内村鑑三


藤本御両人様
鑑三

拝啓、細君清安
産の由、今より聖き
笑ひの貴家に充つる

事と存じ候、祝福の益々沛三人様の上に加はらんことを祈上候 匆々

一九一三、八月十五日 鑑三

藤本沛両人様

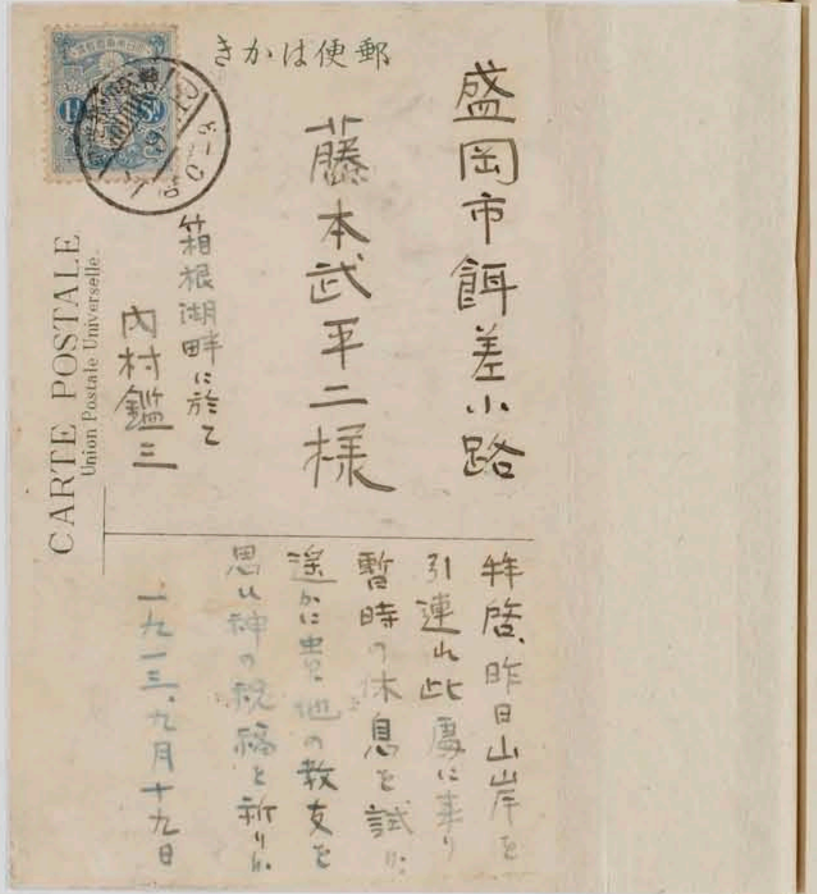
当方餘り善き事無之、小生は去月下旬より肛門周圍炎の襲撃を蒙り

二週間ほど悩まされたり、加之、家内は其実父を失ひ、小生等両人其後始末のため京都へ参り昨夕帰宅致し候、近頃悪しき報知にのみ接する折柄貴家よりの喜信に接し、人生に又喜悦の半面あるを知り、愁眉を開き候次第に有之候。山本夫人へ御序の節宜しく御傳へ下されたく候。同夫人とは御交際日々に厚きを

盛岡市餌差小路
藤本武平二様

大正二年八月十五日
東京府下淀橋町柏木九一九
内村鑑三

知り、小生に於ても非常に
喜ばしくあつた、草々


郵便はかき

盛岡市餌差小路

藤本武平二様

箱根湖畔に於て

内村鑑三

CARTE POSTALE

Union Postale Universelle

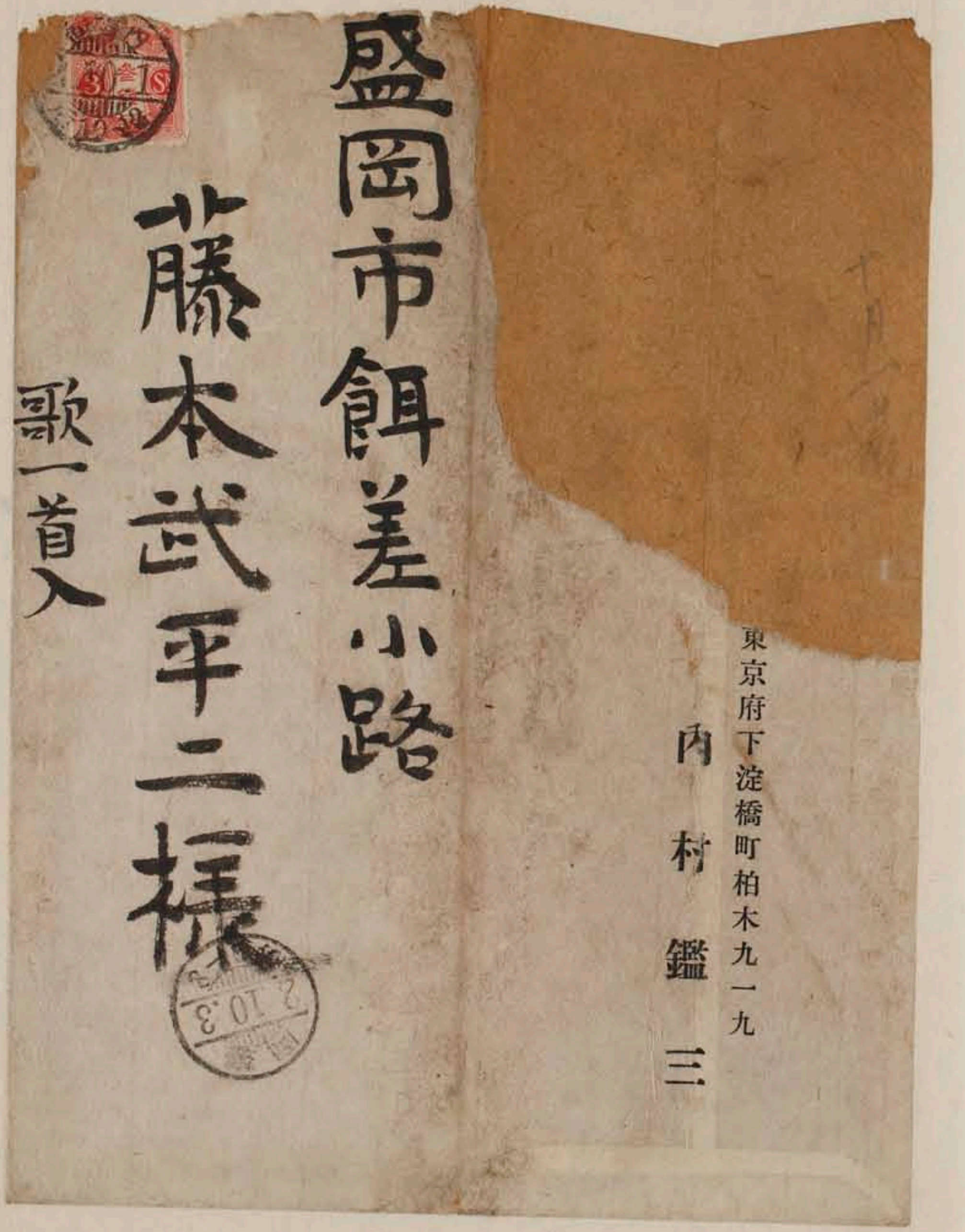
拝啓、昨日山岸を
引連れ此處に来り
暫時の休息を試み
遥かに貴地の教友を
思ひ神の祝福を祈りし
一九一三、九月十九日

拝啓、先日は御祝いの御
餅御送り被下寔に有がたく
奉存候、一度新ホームの

芦の湖の富士

（箱根名所）

客とありたきものに有之候
北上河岸の秋色実に慕
はしく存候
別紙出鱈目一首御序
の節山本女史に御示し下
さく候
今井館附属講堂新築
殆んど落成致し、遠からずして
其処に開講仕るべく候、
御来席を祈り候 早々
一九一三、十月一日
鑑三



東京府下淀橋町柏木九一九
内村鑑三

盛岡市餌差小路
藤本武平二様
歌一首入

藤本君

拝啓、当方よりは常々
御無沙汰仕り申訳無
之が、皆様御変りなき

由御悦び申上候、
偖此たびは見事なる
林檎澤山に御送り
被下、御厚情の程千
万有難く奉存、一同
感謝して頂だい仕るべく候、
神の榮、御地に於て御両
人様を以て顕はるゝ由承はり
何よりも嬉しく奉存、
去る十三日今井舘に於て

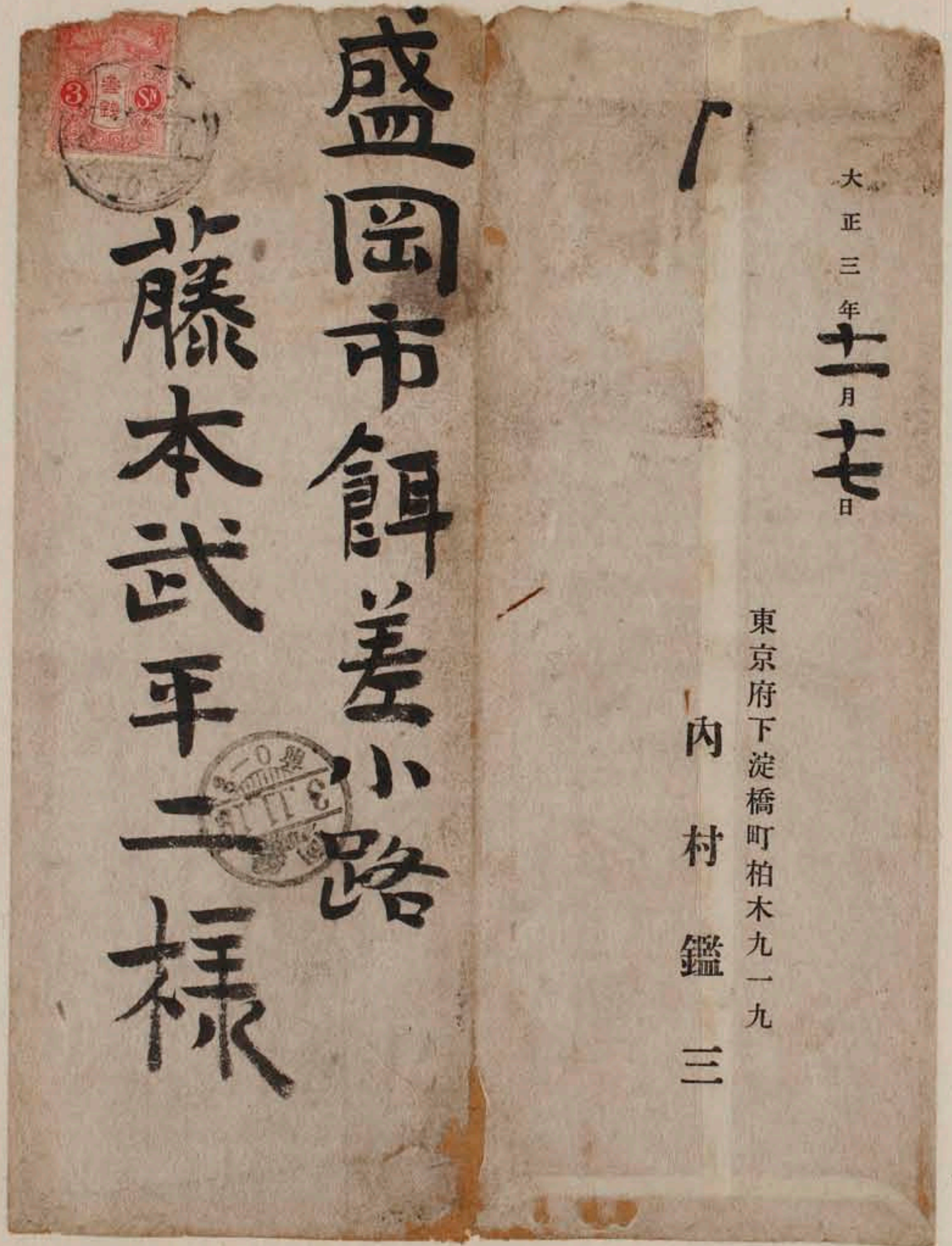
松江夫婦の媒介にて
石川識一氏と森田甫氏
の妹ケイ子との結婚有
之、式後、松江氏方にて
夕飯の御馳走有之、
萬事御両人様の時と同
じにて、其時の事思出し候、
別封を以て柏木絵はがき
差上候写御落手下さ
たく候
右御礼まで申上候、

匆々

一九一四、十二月十七日

鑑三
シヅ

藤本清両人様


〆
大正三年十二月七日
東京府下淀橋町柏木九一九
内村鑑三
盛岡市餌差小路
藤本武平二様

村田氏宛書簡

鹿島健次氏寄贈

内村鑑三先生自筆の村田氏宛書簡目録

新宿区柏木四ノ八五八国鉄公舎A-20　鹿島健次氏寄贈

書簡の種類	発信年月日	発信地	受信地	受信人	用件
封書	六六			村田勤	聖書之研究原稿落手の返事

拝啓、御送附の原稿今朝正に落手、一通り拝読致し候處、

甚だ有益なる記事を有
りしに付き謹んで「研究」誌に
掲載せらるべく候、（但し二度
に分ちて）、ツウ井ングリーは小
生の理想的人物の一に有之、
嘗て Spirit of Switzerland
として彼を紹介せし事も有之、
今回一の character sketch を
貴兄の文に見て懐舊の念に
堪えず候、小生は今日尚ほ国
を革むる者はレフォームド主義
なりと信じ申候、貴兄の筆を以
て其史的動作を我邦人に紹
介せらるゝとは小生の最も感謝する

山田幸三郎氏宛書簡

山田幸三郎氏寄贈

所以清塵に、
割に澤山の謝礼を呈する事を得ず
以上之筆墨之料位いは呈する
ことを得るなと存候、常に時々
清投稿を清勸め申候

六月六日　内村鑑三

村田学兄

内村鑑三先生自筆の山田幸三郎氏宛書簡目録

目黒区本郷町二〇　山田幸三郎氏寄贈

書簡種類	発信年月日	発信地	受信地	受信人	用件
絵はがき	一九二六、八、一九	柏木	逗子	山田幸三郎	返信（病気に勝つ信仰）
はがき	一九二六、一二、一六	同	同	同	キリストの与える平安

渡辺五六様　　　　　　六月廿日

大変遅れて恐縮ですが先般は心のこもった御歓待を蒙りまして有りがとうございました。

内村先生の手紙や原稿の保存方法については先日国会図書館の藤尾君に訊きましたが、御本人に来て頂いて話した方が、私に話して間接に伝えられるよりは明細にわかって良いだろうと申しました。念のため藤尾君のハガキを同封いたしますから、いつか一度御出向き下さったらよいかと思います　彼の名の次に記されている(451)という番号はたぶん彼の室番号かと思います。

外に内村先生の私へのハガキ2枚同封します。原稿も葛巻さんから貰ったのがありましたが、今ちょっと見つかりません。なお雑誌で私の手元にあるもの、外に私の今井館集会々員桑原君の手元にあるものの番号をお知らせします。何れも実際によいものであります。早々

山田幸三郎

郵便はかき

POST CARD

神奈川縣逗子
さくら山
山田幸三郎様

長野縣軽井澤町水坂 星野内
内村鑑三
（夏期中）

K. MAYEJIMA. PHOTOGRAPHER KARUIZAWA JAPAN
PICTURE POST CARDS MADE TO ORDER.

御はかき当地に於て拝見しました、引つゞき御平安を賀します、病を癒さるゝよりも病に勝つの信仰を賜はるは更に大ふる恩恵であると信じます、

1926
八月十九日

郵便はかき

相州逗子 さくら山

山田幸三郎様

THE 29 CHOME VOLCANO ASAMA.

淺間山 二十九丁目附近

関口友吉氏宛書簡

関口友吉氏寄贈

Nov. 16. 1926

May living Christ
abide with you,
giving you peace
which no man
can take away
from you.

Kanzo Uchimura

内村鑑三先生自筆の関口友吉氏宛書簡目録

北海道美唄市鴻の台町九号　関口友吉氏寄贈

書簡種類	発信年月日	発信地	受信地	受信人	用件
封書	大正一四、五、二〇	柏木		関口友吉	「聖書之研究」三百号記念寄付金礼状（本文印刷）
はがき	昭和四、三、七	同	北海道美唄	同	「聖書之研究」についての返信（本文代筆）

/

「聖書の日本」三月号で内村先生の文庫設置のこと誠に
有意義の事と思い私も嬉しく思いますので御送り申します併し
私の送りし品が果して御文庫の御趣意に適するや否や私には
よく解りませんが若し適しませんでしたら良きように御
計らい下さるやう御願い上ます
猶此計画の担当者は確しか塚本虎二様であったと思い
ましたが三月号の同誌は病院で或る患者に見せたりちょっと
流れましたので手許に返らないで塚本様の住所がわからず
（病院内に三月号は忘れて来た）止むなく先生宛に送りま
したから御面倒様ながら（塚本様に）御れんらく下さるやう
御願い上ます
内村先生の「信仰五十年」は私去る十五年十二月頃
大病なる郷里に帰省の時木村孝三郎氏は召されて
一年余りであり同氏の長女ムツ子姉から記念のため
贈られた品であります
又孝三郎氏在世中 先生著「求安録」をも贈られ

まーたが是れは私の不注意のためネズミにやられて駄
目に成りました。又先生のルツ子様御病氣の時御見
舞作代に依頼されて札幌座のリンゴを送った時先生から
御丁重な御礼状を頂きましたが是れも私の不注意のため
ふん失致しました又大学設置の賞金でーがかり
ですりましが千円送ります（是れはつりカイで）
皆様の方の努力に依り中村先生の意義ある
生活が一段と輝きましやう御祈りしております

昭和三十八年三月二十九日　園口友吉

政池先生

拜啓貴下の御平安を賀します。

此たびは『聖書之研究』第三百號紀念傳道並に幸福增進費の內へ金貳圓御寄附下され誠に有難く存じ奉ります。尙此上とも御祈りを以て御援助下さるやう偏に願上げます。御申越に由り小生自筆原稿別封を以て差上げましたから御受取を願ひます。御禮までに申上げます。

敬具

大正十四年五月廿日

東京市外淀橋町柏木九一九

内村鑑三

関口友吉様

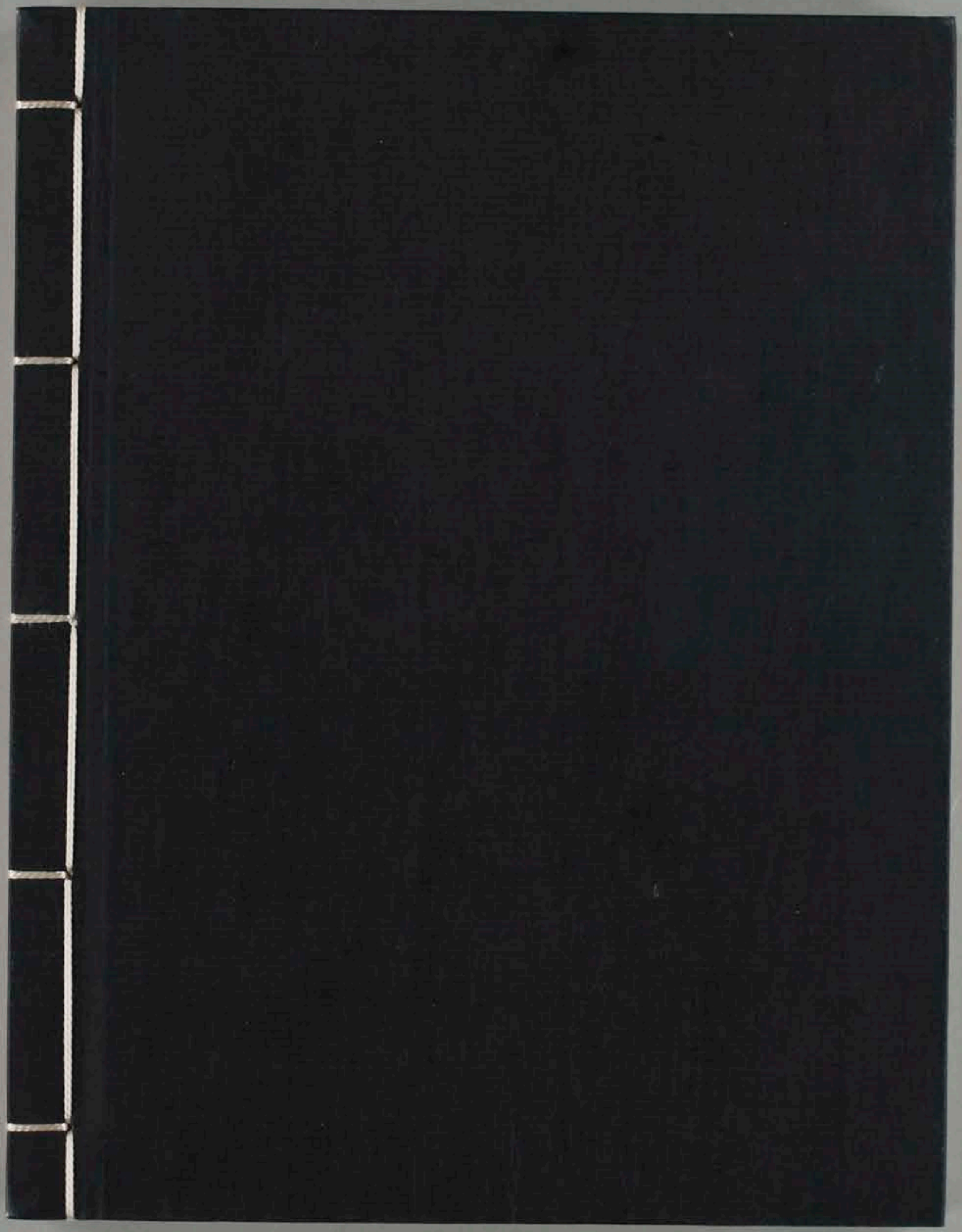
郵便はかき

北海道石狩國
美唄炭山、鴻之台
関口友吉様

東京市外淀橋町柏木九一九
内村鑑三

拝啓、此度は誠に善き音信御送り
被下有難く存じ候。貴君の如き読
者を持つ事が「聖書之研究」の目的に有
之候。此上とも御信仰の益々御増進
あらんことを祈上候

匆々

昭和4年3月7日

内村鑑三